

令和3年度 学校評価書

学校名 北海道標茶高等学校

学校関係者  
学校評価員  
5名

1 学校教育目標

- 1 探究 主体的で協働的な探究により、質の高い学力を身に付け、地域社会の発展に資する生徒を育てる。
- 2 飛躍 新たな時代において、不撓不屈の精神を以て、自己実現を目指すことのできる生徒を育てる。
- 3 共生 「人」、「自然」、「食」等に関する美学を通して、生命を尊び、多様性を認め合い、豊かな人間性を持った生徒を育てる。

2 重点目標

- 1 文化理解、地域環境、農業・食品に係る系列事業、並びに社会と連携したキャリア教育の内容充実を図り、いのちの学びから、主体的に自己の在り方、生き方を考える能力を育てる。
- 2 全ての教育活動において主体的・対話的で深い学びの視点からの学習を充実させると共に、ICTの活用による協働的で個別最適化された学習指導を推進する。
- 3 習得した様々な知識を活用し、課題を解決する成功体験をとおして創造性を身に付けると共に、様々な手段を用いて周囲に伝える表現方法や技能を身に付けさせる。
- 4 地域創生に資する高等学校として、地域社会と連携した教育活動の充実を図り、特色ある学校活動を広く、分かりやすく発信する。
- 5 コロナウイルス感染症拡大防止をはじめ、適切な危機管理に努める。
- 6 教職員が生徒と関わる時間を確保し、心身の健康を保つことができるよう働き方改革を推進する。

3 経営方針(目指す学校像)

- 1 本校の総合的の理念を踏まえ、主体的で対話的な深い学びと多様な進路実現を保障する教育環境の整備に努める。
- 2 学校及び地域資源を活かし、社会との連携・協働による文化、自然環境、食を特色とした魅力ある社会に開かれた教育課程の運用に努める。
- 3 学校を軸とした地域(創路圏域)づくりを実現する高校として地域社会に評価され、北海道の高校として存在感を示す教育実践に努める。
- 4 共生社会の形成に向けて支援を要する生徒のニーズに応じた指導の充実を図るとともに、家庭、地域、関係機関等による連携体制の整備を進める。
- 5 生徒や保護者、地域との共助による信頼関係を築き、人間関係や組織運営を円滑に進めるとともに、危機管理事業に適切に対応することで、信頼される学校づくりを推進する。

4 自己評価結果

評価基準 【A:達成している(4.0~3.25) B:おおむね達成(3.25~2.5) C:やや不十分である(2.5~1.75) D:不十分である1.75~1.0】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	評価項目	自己評価		改善・充実の方策	学校関係者評価				
		達成状況	課題度		(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ			
A 学習指導	□社会で自立して生活する上で必要な基礎・基本的な学力を身に付けさせることができたか。	B (2.8)	○	朝学習の実施。到達度テスト(年2回)、学力テスト(年度末)の活用。習熟度別授業、スタディサプリの活用推進。	A	A			
	□生徒の主体性を育むために、各教科で対話的で深い学びの実践と評価の工夫に関する取組が進められたか。	B (3.0)	○	学習方法と評価方法に係る教員研修の充実。公開授業や教科指導訪問の活用。学習指導に係る各種研修資料の配布とデータ共有。					
	□個別の課題やスタディサプリ等の学習機会を活用し、自学習慣の定着を促すことができたか。	B (2.6)	○	朝学習等、集団での学習機会の設定や個別最適なICTを活用した学習機会の提供。観点別評価による成功体験や教材の工夫による生徒の学習動機を高める取組。					
	■端末一人一台導入による授業方法の研究、運用ルールの策定等、活用準備が整ったか。	B (2.5)	◎	ICT活用スキルの向上に向けたオンライン研修を含む研修機会の設定。各自の研鑽意識の促進。他校事例の共有。					
	■新教育課程表が完成し、開かれた教育課程の実施上の課題を捉えた上で、運用環境を整えることができたか。	C (2.4)	◎	課題の明確化と具体化、ひと・もの・こと等の具体整備と、学習指導に係る研修					
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入した端末が十分活用されるよう研修してください。</li> <li>学習はやはり人と人が直に会って関わるのが大切だと思います。オンラインは補助的に活用してください。</li> <li>個に応じた学習場面を提供することで、生徒の意欲も高まると思います。限られた先生の数でも効果が表れるよう工夫してください。</li> </ul>								
B 生徒指導	□情報活用マネー等に関する啓発事業の実施と、効果的な事後指導を行うことができたか。	B (2.7)	△	外部講師による講話やリーフレットなどを用いた日常指導の充実。PTAによる家庭向け啓発資料の活用。一人一台端末活用ガイドラインの徹底。	A	A			
	□いじめに至る前の人間関係にも配慮しながら、いじめの早期発見に努め、解決することができたか。	B (3.1)	○	朝の打ち合わせやファイル共有を活用した生徒情報の交流機会の充実。支援委員会及びコーディネーターの活用。					
	■定期的に生徒理解研修会を実施し、保護者や関係機関との連携により支援的な生徒指導と家庭教育の支援を行うことができたか。また、ピアサポートを推進し、生徒同士の支援体制を整えることができたか。	B (2.9)	○	生徒理解研修会の継続。教員が生徒・保護者と接することのできる時間の確保。ピアサポートの手法については再検討。					
	■様々な指導において、その理由を明確に説明し、生徒自身の納得の上で自ら改善する姿勢を示させることができたか。	B (2.8)	○	威圧や懲罰に頼らない指導力を身に付ける生徒指導研修。関係機関や専門家と連携した組織的な生徒指導の推進。					
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットの中の言動は見えづらく、非現実の世界で傷つく生徒もいます。ネットの使い方について更に指導をお願いします。</li> <li>厳しい指導を求める声もありますが、生徒個々が自分で成長しようとする気持ちになる生徒指導をお願いします。</li> <li>先生方と生徒のコミュニケーションは良くとれていると思います。家庭との協力も進めてください。</li> </ul>							
C キャリア指導	□進学希望者には第一志望校への合格率の向上、就職希望者には職業理解に基づく就業定着率の向上を図る指導ができたか。また、進路希望未定者に対して、個別に丁寧な支援を行うことができたか。	B (3.0)	○	進路に係る組織的な個別相談と外部講師による体験的説明会の機会充実。推薦会議を活用した個別指導の充実。総合的な探究の時間を活用した、アカデミック探究ゼミの設置検討。	A	A			
	□「産業社会」から「地域探究」、「課題探究」への系統性を生徒に理解させ、一層のキャリア教育の充実が図られたか。また、「課題探究」では指導方法の工夫により探究性の深化を図り、生徒の達成感を得ることができたか。	B (3.0)	○	探究テーマ設定の段階から、地域の方に参加いただく機会を、地学連携会議を活用して設定。社会を意識した教育活動を、授業にも反映させていく。					
	■CG部が教務部等と連携し、系列・教科・分掌等に対して積極的にコーディネートするとともに効果的な事業改善を図ることができたか。	B (3.0)	○	引き続き、各種事業改善を進める。育てる資質・能力の観点から重複している事業は、その回数や規模、廃止も含め見直しを図る。					
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>標茶高校の生徒は挨拶や町のお手伝いなど、大人と一緒に良く活動してくれます。また、自信を持って意見を伝えてくれ立派です。これからも、地域の大人たちと関わる機会を継続してください。</li> <li>推薦や総合型選抜で、国立立大学に毎年複数合格しているのは立派ですし、進学後も伸びていると聞きます。生徒の主体性を育てるとい目標は良いことです。</li> <li>公務員試験の1次で落ちることがあります。教養的な学力を伸ばしてください。</li> </ul>							
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットの中の言動は見えづらく、非現実の世界で傷つく生徒もいます。ネットの使い方について更に指導をお願いします。</li> <li>厳しい指導を求める声もありますが、生徒個々が自分で成長しようとする気持ちになる生徒指導をお願いします。</li> <li>先生方と生徒のコミュニケーションは良くとれていると思います。家庭との協力も進めてください。</li> </ul>							
D 健康安全指導	□生徒に関する情報共有が図られ、特に困り感を持つ生徒への生徒指導・特別支援・教科指導等に反映することができたか。	B (3.1)	○	更に学年会、生徒情報交流会を活用し、困り感を持つ生徒について共通理解を図り、各種指導に役立てる。教務内規を整理し、支援体制を整える。	A	A			
	□心身の健康・安全に関する講習会等を実施し、生徒の健康に関する安全意識を高めることができたか。	B (3.1)	○	1日防災教室や避難訓練、防犯教室、薬物乱用防止教室、救急救命講習、性に関する講演等、外部の専門家と連携した事業を継続する。新1年生には特に、成人年齢引き下げに伴う消費者安全教育や人権教育を意図的に実施する。					
	■災害、犯罪等に係る安全教育があらゆる場面で実施され、生徒の危機管理に係る適切な判断力と行動力を養うことができたか。	B (3.0)	○	感染症拡大防止体制の具体化と徹底のための点検。休みの多くなった生徒への学力保証に関わる、オンラインを活用した学習指導の環境整備と推進。					
	■コロナ感染症拡大防止策が適切に実施されたか。	B (3.0)	○						
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策を続けてください。ただし、行事がなくなったり、欠席が多くなっていることが気になります。</li> <li>日常での先生方との交流の中でも、生徒理解を広めて、生徒の心のケアをお願いします。</li> </ul>							
E 信頼される学校づくり	□「緊急時対応マニュアル」による危機管理研修を実施し、特に実習時の安全対策と危険箇所の早期発見を行うことができたか。	A (3.3)	○	施設・設備の安全点検の継続と危険箇所の円滑な改善。実習時の生徒への心得指導の徹底と指導教員の意識向上。	A	A			
	□本校の教育資源を活用して、地域の方々との交流場を充実させ、地域関係団体、他学校等と連携し、地域を支援・活性化することができたか。	B (3.1)	○	各系列ゼミ班や授業での協働場面や地学連携会議を活用した事業を整理、活用し、中学生への公開も含めた地域への学校公開イベントの実施を検討。					
	■生徒、保護者、地域の理解の下、業務の改善と合理化・分業化、ワークライフバランスの意識改革等、無理なく働き方改革が促され、職員の月超過勤務時間を45時間以内にすることができたか。	B (2.8)	△	定時退勤日、勤務割振、代休日の指定等の積極的な活用。業務の平準化。ワークライフバランスの意識改革。部活動等の外部人材の活用等。					
	■広報において、特に町内外の中学校へのPRが推進されたか。	B (3.0)	○	町内中学校との連携行事の開催検討。町長会、教頭会での連絡、調整。教職員の交流、中学2年生への学校説明の充実。標茶高校フェスの計画、検討。					
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前から比べると先生方の超過勤務は減ったように思います。先生方が元気でないとよい学校にはならないので、地域としても協力しますので相談してください。</li> <li>納得いくまで生徒のために尽くしてくれる先生のおかげで信頼される学校となっているのも事実です。先生方には多様な働き方を認めてあげていいと思います。</li> <li>地元の中学校からの進学率が低くなっています。中学校との連携を進めてみてください。</li> </ul>							
F 組織運営	□各事業の目的を教職員全体で共有し、部長主任、担任等への業務の集中化を防ぐ分業体制は推進されたか。	B (2.7)	△	業務の細分化と若手教員への積極的な業務委託。多忙期における分掌外業務への協力体制の確立。人事異動における教職経験者の確保。管理職による機動的な組織運営。	A	A			
	■校内事業が分掌内で検討され、PDCAの検証によりその効果を見極めて見直しが行われたか。	B (2.6)	○	各分掌、系列等の組織での見直し案の策定。校務運営委員会による全体調整体制の確立。外部関係団体との共通理解と調整。					
	■会議、打合せ等は積極的かつ建設的に行われ、発表された議案が民主的に議論され、職員会議において共通理解が図られているか。	B (2.7)	△	ファイル共有を活用した会議資料の資料の事前共有。打ち合わせ結果や、行事反省の整理。職員同士のコミュニケーションの還流。					
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの事業を推進してくれています。教職員に過度な負担がかからないよう、地域の方々に相談してください。協力します。</li> <li>職員同士のコミュニケーションは大切です。コロナ禍で人間関係が希薄にならないようにしてください。</li> <li>若い先生も生徒と一緒に一生懸命やってくれていると思います。特定の先生に業務が集中しないよう分業ください。</li> </ul>							
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの事業を推進してくれています。教職員に過度な負担がかからないよう、地域の方々に相談してください。協力します。</li> <li>職員同士のコミュニケーションは大切です。コロナ禍で人間関係が希薄にならないようにしてください。</li> <li>若い先生も生徒と一緒に一生懸命やってくれていると思います。特定の先生に業務が集中しないよう分業ください。</li> </ul>							
G 教職員の資質向上	■有用な研修テーマを全体で設定し、計画的かつ効果的な方法で全体研修会を実施できたか。	B (2.6)	○	授業時数を確保した上での柔軟な全体研修時間の確保。全体研修テーマと計画の策定。調整担当部署の明確化。外部講師等の活用。	A	A			
	□新教育課程の実施に向け、教科や系列において学習指導の方法や評価方法について検討が行われ、具体的な改善がなされたか。	B (2.7)	△	授業方法、学習評価に係る教員研修の実施。公開授業の充実。対話的な深い学びを進める。ICT等の環境整備と活用研修。					
	□各自が研修課題を設定し、外部研修への参加やOJT等による自己研鑽を積むことができたか。	B (2.6)	○	学校としての研修テーマの設定。時間と研修機会の提供。令和の教育実現に向けた意識改革等。					
	□教育公務員として高い倫理観と服務規律遵守の意識を持続し、同僚性により啓発し合うことができたか。	B (3.2)	○	打ち合わせを活用した継続的な啓発の継続。各種リーフレットを活用した服務研修の実施と話題提供。個別面談における啓発。職員間の信頼関係の構築。					
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年教育課題が山積される中、研修は欠かれません。思い切った時間の確保が必要だと思います。</li> <li>コロナ対策や多様化に合わせた研修等、今までになかったものが必要となり整理が大変です。研修計画を担当する部署が必要だと思います。</li> <li>研修講師は、外部の専門家やオンラインでの研修を頼っていいと思います。</li> </ul>							